

宣 言

持続可能な社会実現のため、「SDGs」を滋賀の目標に

～あらゆる人々と生命自然が共存し繁栄する持続性ある社会を

世界と連帯して築く滋賀のイニシアティブを宣言～

平成 29 年 3 月 24 日

滋 賀 経 済 同 友 会

SHIGA 生命文明社会創造研究会

目次

持続可能な社会へのアプローチ	2
2016年「SHIGA 生命文明社会創造研究会」の報告	4
<u>持続可能な社会実現のため、「SDGs」を滋賀の目標に</u> ～あらゆる人々と生命自然が共存し繁栄する持続性ある社会を 世界と連帯して築く滋賀のイニシアティブを宣言～	6
<SDGs についての参考資料>	8
我々の世界を変革する： 持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（出典：国際連合広報局）	

持続可能な社会へのアプローチ

- ・ 2008年 「企業と生物多様性」研究会

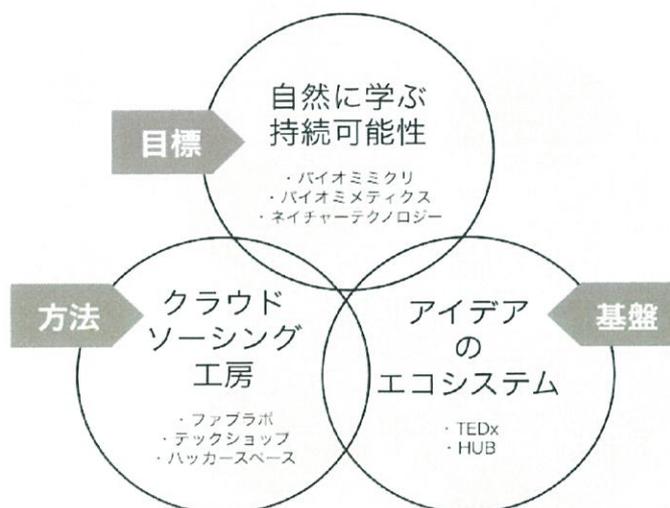
生物多様性の豊かな社会を未来に引き継ぐための、滋賀県経済人の宣言として「琵琶湖いきものイニシアティブ」の発表をした。

- ・ 2011年 「自然に学ぶ経済」研究会

生きものの社会性や知恵を学び、自然と共生する持続可能な循環型社会を作るために、ものづくり、経営判断、組織やシステムの仕組みなど、経済のあらゆる点において「自然に学ぶこと」を宣言した。

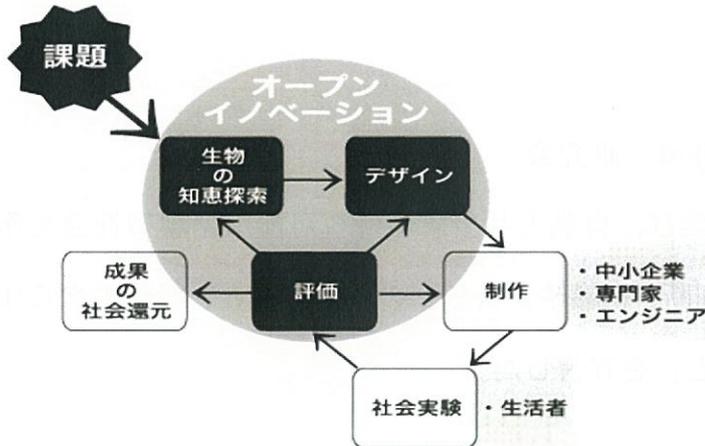
- ・ 2013年 「新ものづくり」研究会

デジタルツールのインフラとこれまでの研究成果を活かしながら、自然に学ぶ新製品開発、社会貢献と経済活動を両立させるソーシャル・ベンチャーについて研究を行ない、新ものづくり拠点の構築を目指すべく、産学間のネットワークを強化した。



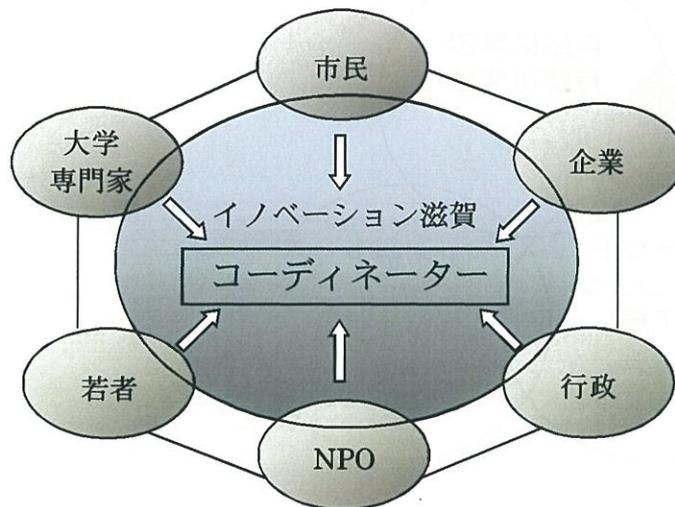
- ・ 2014 年 「BMI(生き物に学ぶ革新的ものづくり)」研究会

革新的なものづくりに向けて共に知識を深め、また他団体と交流する場を持つことにより、クローズではなくオープンに各々の知恵や技術を結集し、持続可能な新しい価値を見いだす“ものづくり拠点”の検討を進めた。



- ・ 2015 年 「BID (Bio Inspired Design)」研究会

これまで経験したことのない人口減少局面に入り、地域社会は従来のままの経済や公共サービスで維持できなくなることは明らかであり、新しいモデルを実践的に創造することが求められている。狭い利害に囚われず、従来の垣根を越え、ひとつの場を共有する、創造的に社会の課題に正面から取り組むネットワーク型イノベーション（イノベーション滋賀）を提案した。



2016年 SHIGA 生命文明社会創造研究会の報告

SHIGA 生命文明社会創造研究会は、新たな文明を構築する、創造的な「活躍の場」「人材育成」を視野に含め、これまで追求してきた生命世界戦略の産業への適応を広い視野で研究することを主題に研究してきた。

【第1回研究会】

日時：2016年 7月11日（月）15：00～17：00

場所：ピアザ淡海（滋賀県大津市）

参加人数：37名

講師：安田喜憲氏（環境考古学者）

内容：「生命文明の時代を創造する科学」をテーマにご講演いただいた。

21世紀のキーワードを「生命」とし、過去に学び命の循環を重視する科学の発展を成し遂げることをメインストリームにするべく、ディスカッションをおこなった。

【第2回研究会】

日時：2016年 9月21日（水）15：00～17：00

場所：ラ コリーナ近江八幡（滋賀県近江八幡市）

参加人数：48名

講師：石田秀輝氏（東北大学名誉教授）

内容：「生命文明を拓くネイチャーテクノロジー」をテーマにご講演いただいた。持続可能な社会を創造するために、自然に学び、自然を活かすテクノロジーの重要性を再確認し、個を共同体や自然につなぎとめるために、暮らし方の形を変える必要性を提起いただき、その方法としてバックキャストで2030年の社会を考え、厳しい環境制限の中で心豊かに暮らすヒントや企業の取り組み事例を学んだ。

【第3回研究会】

日時：2016年 11月10日（火）14：30～17：00

場所：ラ コリーナ近江八幡（滋賀県近江八幡市）

参加人数：71名

内容：千歳科学技術大学教授の下村政嗣氏が委員長を務める高分子学会バイオ

ミメティクス研究会の公開講座「琵琶湖畔で語るバイオミメティクスの未来」に参加し、地域や、SHIGA 生命文明社会創造研究会の取り組みの発表や、大学でのバイオミメティクスの研究事例、フランスでのバイオミメ EXPO の情報共有をおこなった。

【第4回研究会】

日時：2017年 1月31日（火）15：00～17：00

場所：コラボしが21 9階 会議室

参加人数：23名

内容：本年度のまとめと、宣言に向けてのディスカッションを行った。

持続可能な社会実現のため、「SDGs」を滋賀の目標に

～あらゆる人々と生命自然が共存し繁栄する持続性ある社会を

世界と連帯して築く滋賀のイニシアティブを宣言～

私たちの文明は、人間が自然を支配し制御できるという前提の上に立った人間中心主義の文明であった。人間活動による自然へのインパクトは地球の歴史上かつてなく大きなものになり、人間は気候を改変し、かつてないスピードで生物種を絶滅させてきた。確かに、人間は自然を征服したかもしれない。一方で、それは人間に恵みをもたらしたが、他方で、人間だけでなく他の生命に災いももたらしたと言わねばならない。しかし、私たちの文明は貧困や格差をまだ追放することができていないのも事実である。

1990年代から持続可能性が世界的なアジェンダになり、経済、社会、環境の3つの側面から社会の進歩を考え直し、現世代だけでなく将来世代も自然からの恵みを分かち合える社会への模索が始まった。これは、人間と自然との関わり方、科学や技術のあり方、精神的・物質的人間生活のあり方まで視野に入れた問い直しであり、言い換えれば文明を問い直すことであった。

視点を人間社会から地球に落とせば、そこには人間が文明を築くはるか以前36億年前から生命が生まれて進化を続け、多様な生命世界が続いている。それは文明ではないが、人間社会の持続性のある文明に備えるべき知恵が溢れている。バイオミメティクス、バイオインスパイアド・デザインは生命世界の知恵を工学やデザインに応用しようとするものであり、すでに多くの成果が出ている。しかし、生命世界の知恵はそのような分野に限られることなく、新しい文明をつくりだす知恵も持っている。巨大な生命体から微生物まで多様な生命が共存し

繁栄している生命世界の知恵を人間社会に応用することができ、持続性のある文明を築くことができれば、それは生命文明と呼んでいいものであろう。生命文明はあらゆる差異を超えて人々が共存し、差異を受け入れるがゆえに持続可能となる文明であろう。

折しも 2015 年 9 月 25 日『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』が国連総会で採択された。これは、2030 年までに達成すべき 17 の目標 Sustainable Development Goals(SDGs)と 169 のターゲットを定めたものであるが、それらを一貫している社会像は包摂社会 inclusive societies である。これは、「誰一人取り残さない」社会であり、あらゆる異なる境遇にある人々が参加できる社会である。実は、生命世界ではすべての生命が物質循環に関わり、そうすることによって生態系が維持されている。その意味で、生命世界は間違いなく包摂社会である。

生命文明を形あるものにするため、生物の知恵から学び、あらゆる責任のある個人が参加できる包摂社会を滋賀に築き、世界の目標である SDGs を滋賀の目標とし、あらゆる人々と生命自然が共存し繁栄する持続性ある社会を世界と連帯して築く滋賀のイニシアティブを宣言する。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

我々の世界を変革する： 持続可能な開発のための2030アジェンダ

国際連合広報局



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて世界を変革しよう #SDGs #持続可能な開発目標</p>

持続可能な開発の3つの側面

- 持続可能な開発は、将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足する開発と定義
- 持続可能な開発を達成するためには、経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素を調和させることが不可欠



国際連合広報局

3

SDGsのもうひとつの捉え方 – 5つのP



国際連合広報局

4